

懐アニキャラシリーズ

# 蟲姦姫2

by

まふ



蟲にこの体を慰めてもらおう快感を知ってから数ヶ月、  
最近の私は蟲姦中毒になりつつあります。

今日はメーヴェエでのパトロール中に体が疼いて疼いて我慢できなかつたので、  
大急ぎで帰ってきて、この格好のまま愛液でびっちょりのおマ○コを蟲たちに弄らせます。





「・・・うふふ♪ そんなに急いでもがつつかなくても私のおマ○」はどこにも逃げないよ？」  
ぷっくりとした乳首におマ○コの柔らかい膣壁、 虫たちは人間の女性が持つているピンクの秘肉が大好きです。



「いいーきもちいいー もっと赤ちゃんの部屋の入り回弄って♪」  
蟲がヌメヌメした触手を使い、 子宮口をこじ開けようとするたび、 私は快感に溺れます。



蟲たちにおマ○コと汚い穴の中を同時に舐められるのは  
たまらないものがあります。

「いいっ！いいっ！蟲ベロク○ニきもちいいっ……」

あん♡

あん♡

あん♡

あん♡

うふふふ この蟲も赤ちゃんのお部屋が大好きみたいです。  
何回も舌を子宮に挿入しようとしてきます。

「きもちいい！赤ちゃんのお部屋の入り口と何回もチュッチュツッきもちいい……」





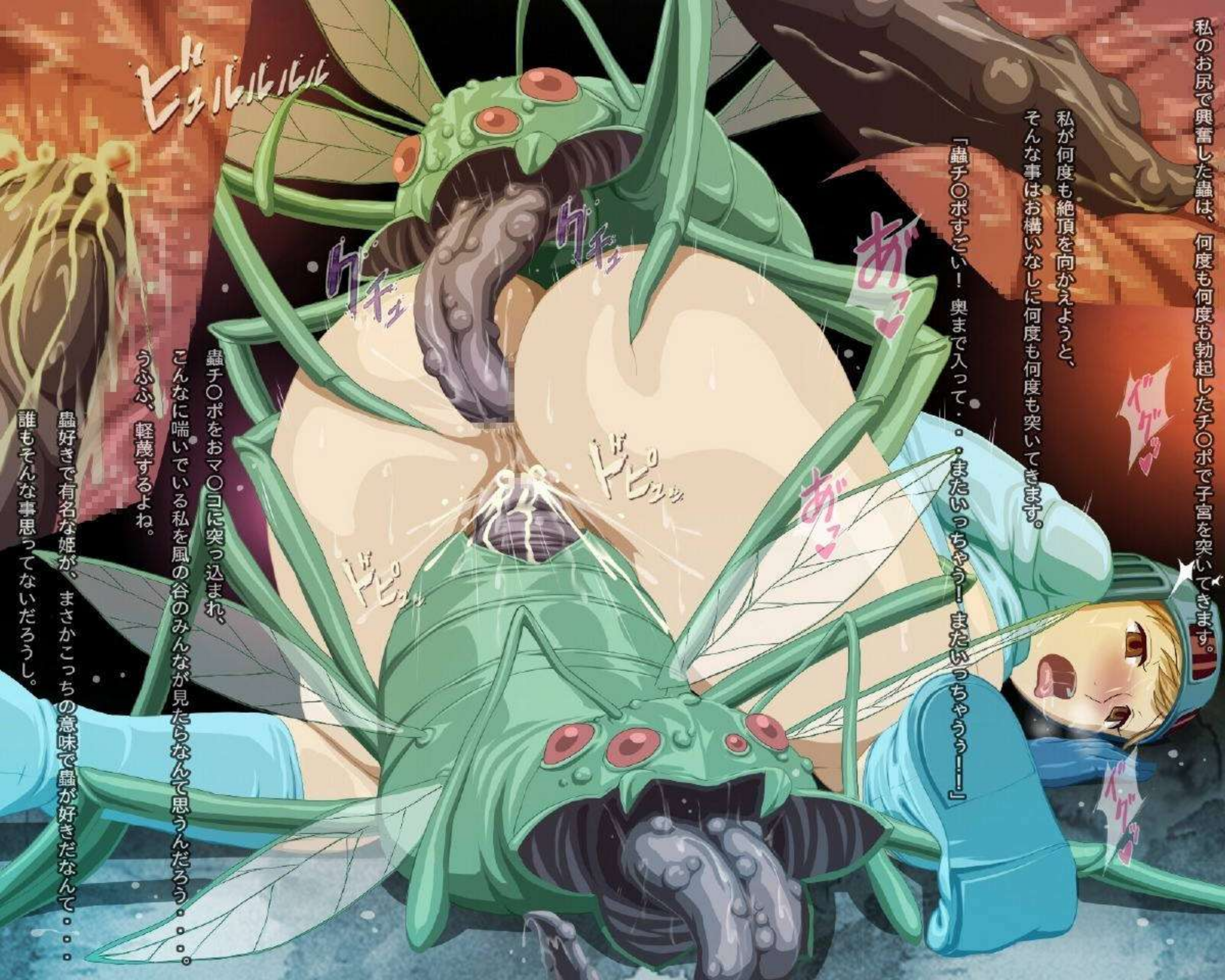
私のお尻で興奮した蟲は、何度も何度も勃起したチ○ポで子宮を突いてきます。

私が何度も絶頂を向かえようと、  
そんな事はお構いなしに何度も何度も突いてきます。

「蟲チ○ポすごい！奥まで入って・・・またいっちゃう！またいっちゃうー！」

蟲チ○ポをおマ○コに突っ込まれ、  
こんなに喘いでいる私を風の谷のみんなが見たらなんて思うんだろう・・・。  
うふふ、軽蔑するよね。

蟲好きで有名な娘が、まさかこっちの意味で蟲が好きだなんて・・・。  
誰もそんな事思っていないだろうし。





私は全身をまさぐってくれてこの蟲が大好きです。

少し乱暴な所もあるけど、やっぱりこの大きな蟲チ○ポはたまらないです。

これでおマ○コを突かれる快感ときたら・・・うふふ

すあ

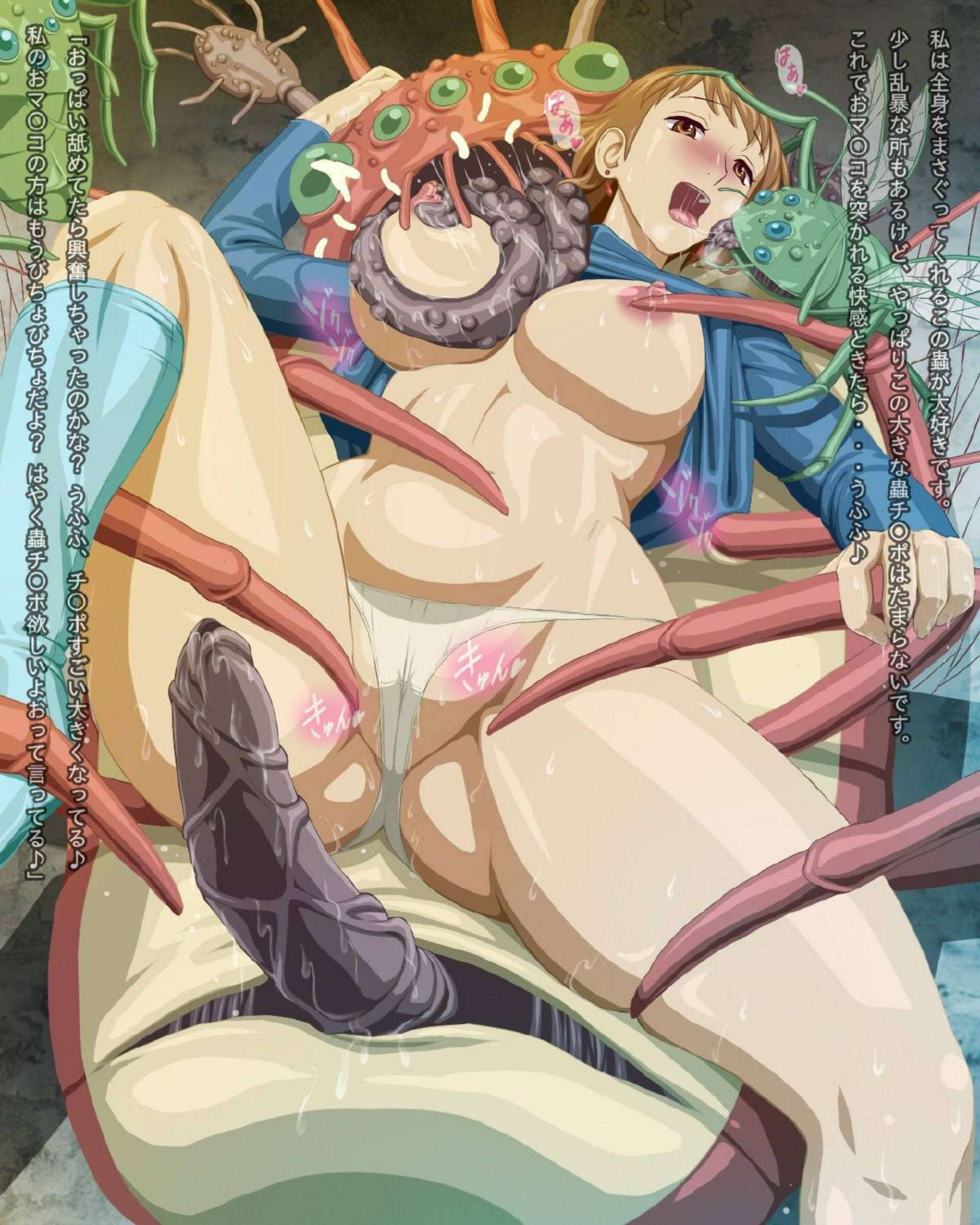
すあ

きゃん

きゃん

「おっぱい舐めてたら興奮しちゃったのかな？ うふふ、チ○ポすごい大きくなってるよ」

私のおマ○コの方はもうびちよびちよだよ？ はやく蟲チ○ポ欲しいよおって言ってるよ」





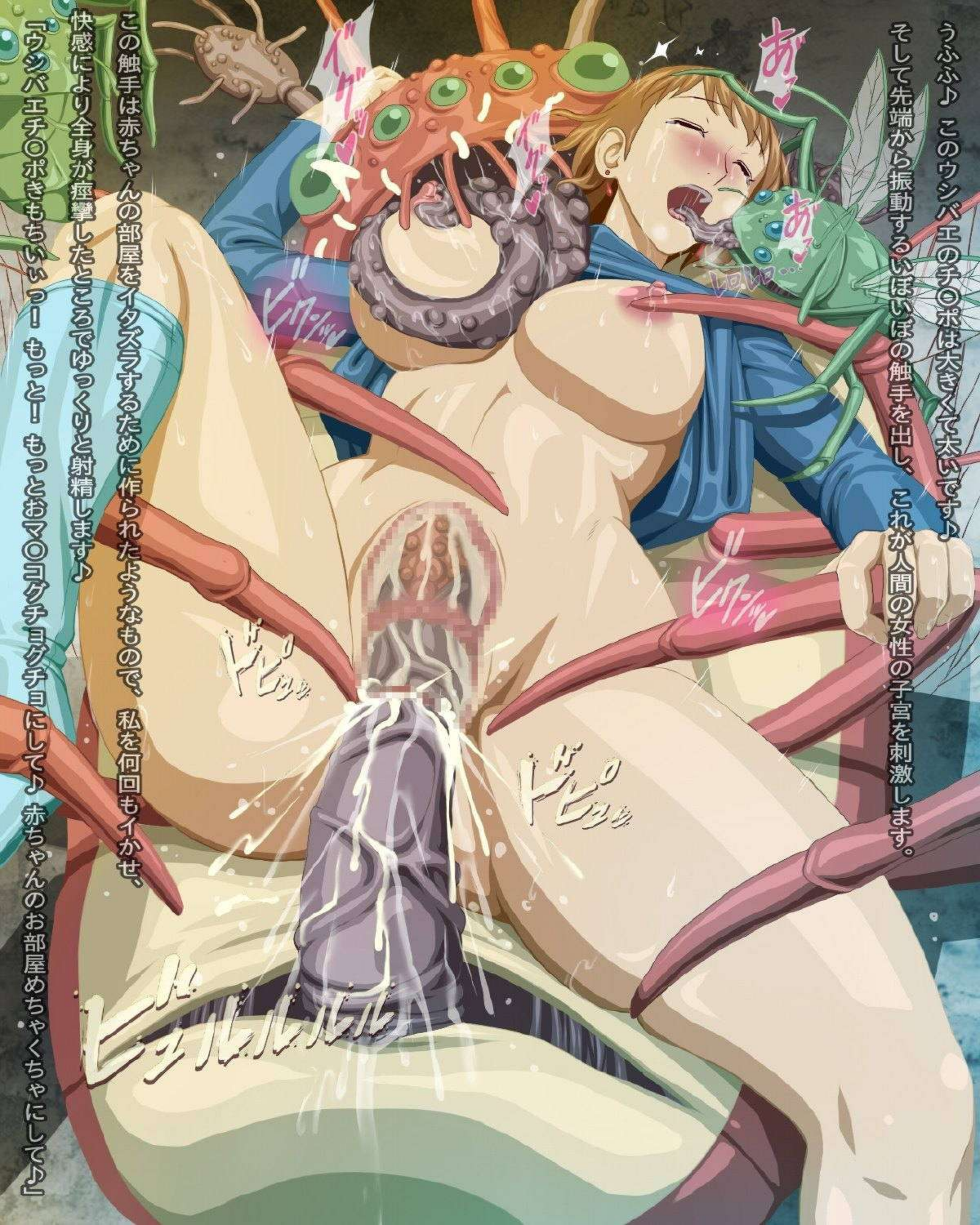
うふふふこのウシバエの子のポは大きくて太いですよ

そして先端から振動するいぼいぼの触手を出し、これが人間の女性の子宮を刺激します。

この触手は赤ちゃんの部屋をイタズラするために作られたようなもので、私を何回もイかせ、

快感により全身が痙攣したところでゆっくりと射精しますよ

「ウシバエのポきもちいいー！もっとー！もっとおマの『グチヨグチヨ』にして、赤ちゃんのお部屋めちゃうくちやにして」





私とベロチュウをして、こんなにチ○ポをギンギンに勃起させているこの蟲は肉食です。  
気性が荒く、全身からは肉食特有のにおいがし、特にこの蟲の口中、舌はものすごい悪臭がします。



うふふ♪でも、そんな悪臭の塊みたいなこの蟲にベロチュウをされ、おマ○コに蟲チ○ポ突っ込まれるのが私は好きです♪  
下手をすれば食べられてしまうという恐怖が私にはたまりません♪  
「うふふ♪いっぱいベロチュウしたから興奮しちゃったのかな？ チ○ポがもうこんなに大きくなってる♪」



うふふ♪私の事をただの性欲処理の肉壺としか考えていない、蟲チ○ポでひたすらおマ○コを突きまくる一方的なプレイ♪  
たまりません♪

「すごいー！すごいのおー！子宮を内側からえぐってくるようなこの蟲チ○ポー！」

この蟲の生殖行為は長時間に及び、時には一日中続く事もあります。

うふふ♪その間、私は何度も絶頂を向かえ、嗚咽にも似た喘ぎ声と大量の愛液を垂らし続けます。

「こわれちゃうー！私、蟲チ○ポでこわれちゃうー！」





うふふ♪今日はクシヤナ殿下も一緒に蟲たちに慰めてもらいます♪

今日は蟲たちがいつも以上に興奮するように、乳首・おマ○コがギリギリ隠れるぐらいのこの下着をつけて蟲たちを待ちます♪滑稽ではあるけれど、人間の男と同様に蟲たちもこれで興奮します♪

「ナ、ナウシカ、ほ、本当に蟲姦というのは気持ちいいのか？」

「うふふ♪」

「・・・ふんっ、まあいい。私も丁度、人間の男では満足できなくなっていた所だ。」

うふふ♪クシヤナ殿下は口では強がっているけど、蟲が素肌を這いずる気持ち悪さ・恐怖で小刻みに震えているのが分かります。





蟲たちの前ではいくらピンクの秘肉の部分の部分を隠そうとしても無駄です。

「ち、乳首を舌でヨリヨリ……。そ、そんな所に舌を入れるなあつ！」

うふふふ 私が思った通りのクシャナ殿下の体はやっぱり敏感ですよ

「そ、そんな、奥まで……。もう立っていられない……。」「あつ……。うふふふ 赤ちゃんの部屋に舌入れようとしてるの」

ぷっくりとした乳首、クリ○リス、膣、どれも蟲たちが大好きな人間の女の柔らかいピンクの秘肉の部分。

うふふふ でも一番好きなのは……。子宮……。赤ちゃんの部屋」

どの蟲もみんなここに入りたがったり、「何か」を入れようします。





蟲子のポをおマ○コにいれられ、蟲へ口に乳首を執拗に弄られ、それでもクシヤナ殿下は氣力だけで立っていました。

快感が全身を走り、喘ぐ事も間々ならないみたい♪

うふふふ かくいう私も、何回も子宮の奥まで蟲子のポを突っ込まれ氣絶寸前でしたけど♪



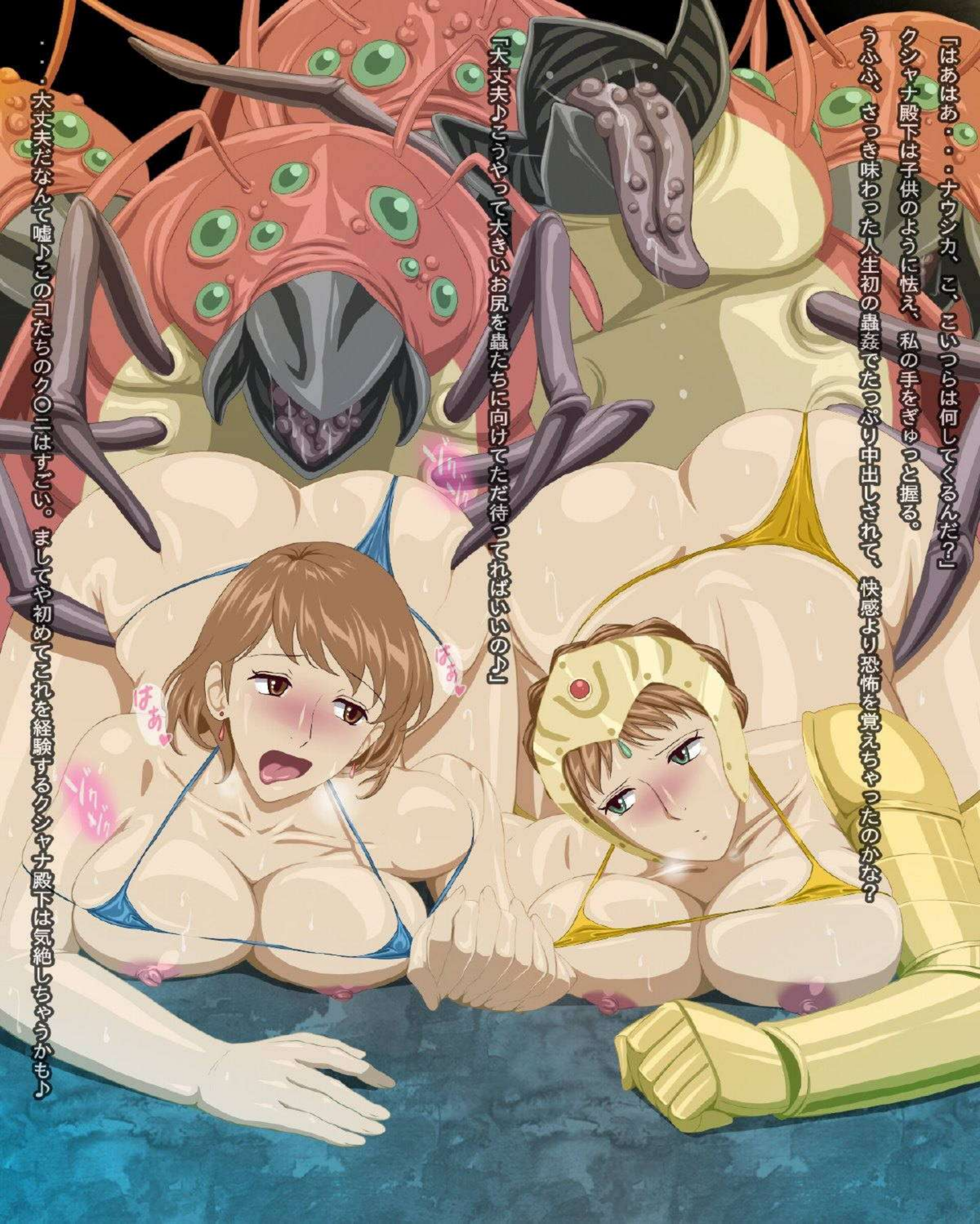


「はあはあ……ナウシカ、こ、こいつらは何してくるんだ？」  
クシャナ殿下は子供のように怯え、私の手をぎゅつと握る。

うふふ、さつき味わった人生初の蟲姦でたつぷり中出しされて、快感より恐怖を覚えちゃったのかな？

「大丈夫、こうやって大きいお尻を蟲たちに向けてただ待つてればいいのよ」

……大丈夫だなんて嘘、このヨたちのク○ニはすごい。ましてや初めてこれを経験するクシャナ殿下は氣絶しちゃうかも、





この蟲たちはまずチ○ポをおマ○コに入れてきます♪  
うふふ♪ 長時間に渡って何回何回もおマ○コの奥の方まで突いできます♪

そして濃い蟲ザーメンをたっぷりと赤ちゃんの部屋に注入します♪  
その量は子宮、膣だけでは収まりきらず、おマ○コから溢れ出しちゃう♪

「ま、また蟲チ○ポ！ さつき突っ込まれたばかりなのに。。。」

「うふふ♪ おマ○コがまださつきの蟲チンポで痙攣してるのに、休憩もなしに間髪入れずまた突っ込まれる気分はどう？」



ビュルルルル



この蟲たちは人間の女のおマ○コ、マン汁が大好物です。その舌を使い膣をかき回し、溢れ出るマン汁を摂取します。

「ナウシカあ、こわれちゃうー！私、このままだとこわれちゃうー！」

『うふふ♪ こんなク○ニ味わった事ないでしょ？今日はいきすぎてこわれるまでたっぷり舐めてもらおう♪』

マン汁の匂いにつられたくさんの蟲たちが集まり、与えられた餌をむさぼるように私たちのおマ○コを奥の方まで舐めまわします。

「子宮に蟲の舌が入っちゃってるー！入っちゃってるよおー！」

「うふふ♪ 私も赤ちゃんの部屋の入り口を蟲ベロが出たり入ったりしてる♪」

蟲たちが私たちのおマ○コに飽きるまで、何度も何度もク○ニされ、イカされ続けました♪





この蟲たちは人間の女のおマ○コ、マン汁が大好物です。その舌を使い膣をかき回し、溢れ出るマン汁を摂取します。

「ナウシカあ、こわれちゃう！私、このままだとこわれちゃうう！」

『うふふ♪ こんなク○ニ味わった事ないでしょ？今日はイきすぎてこわれるまでたっぷり舐めてもらおう♪』

マン汁の匂いにつられたくさんの蟲たちが集まり、与えられた餌をむさぼるように私たちのおマ○コを奥の方まで舐めまわします。

『子宮に蟲の舌が入っちゃってる！入っちゃってるよおー！』

『うふふ♪ 私も赤ちゃんの部屋の入り口を蟲ベロが出たり入ったりしてる♪』

蟲たちが私たちのおマ○コに飽きるまで、何度も何度もク○ニされ、イカされ続けました♪





「ナウシカあつ！なんでこいつら私ばかり・・・」

「うふふ♪クシャナ殿下の体が好きみたい♪」

「もういい！蟲には勝てないと分かったから！もうやめてくれ！もうやめて・・・」

「あんっ！蟲子○ポ・・・子宮にまた入っちゃってる・・・」

蟲に責められつづけ、あれほど気高かったクシャナ殿下が子供のように泣いています。  
うふふ♪でも体は正直です。

恐怖を感じているはずなのに、蟲子○ポで突かれる度にクシャナ殿下はエッチな声を出しながら

おマ○コからは大量のマン汁を垂らしています♪  
クシャナ殿下の意志とは反して、その体は蟲姦を喜んでいるようです♪





「入ってこないでー! し、子宮が蟲で。。。動かないでえっ! 私おかしくなっちゃうー!」  
「うふふ! いっぱい入ってきたね! 赤ちゃんの部屋がエッチな蟲でいっぱい!。。。あつ! そんなに動いたら。。。!」

三人とも本来なら人間の胎児が宿る所が蟲でいっぱいです!  
中の蟲は何度も子宮口を出入りし、子宮の中で動く度に、  
子宮内の敏感な肉壁を触手で舐めまわす度に、  
私たちは何度も何度もイキ、何度も何度も絶頂を迎えます!





うふふ♪ 腹ボテ状態の私たちに欲情したのかな？

チ○ポをギンギンに勃起させながら、ウシバエ三匹が私達に絡み付いて来ました♪

「チ、ナウシカ！ わ、私怖い……」

「うふふ、だいじょうぶ。こわくないこわくない。」

ウシバエの勃起したギンギンの蟲チ○ポを見たクシヤナ殿下は子供のように怯えています。  
まだ快楽より恐怖感の方が上なのかな？

うふふ♪ でも、そのわりには乳首を勃起させおマ○コからは愛液を垂らし続けています。



ウシバエにとって子宮の中に蟲がいようがいまいが関係ないようです。  
ギンギンに勃起したその蟲チ○ポで子宮にいる蟲ごと突いてきます♪



「チ○ポで突かれるたび蟲たちが動いてる！このままだと私とわれちゃう！おかしくなっちゃうー！」  
「蟲が子宮の中にまだいるのに、勃起したギンギンの蟲チ○ポで。。。気持ちいいっ！気持ちいいっ！ー！」  
うふふ♪ウシバエにとって、今の私たちは蟲チ○ポを思うままに抜き差しできるただの肉の塊です。



